

2007. 5. 14

「第17回インド国際産業&技術フェア（IETF2007）」調査レポート

プラネットワークス株式会社  
代表取締役 猿渡 一秀

<目次>

1. 第17回インド国際産業&技術フェア全体の概要
2. 日本パビリオンの概要
3. 展示会各会場の様子
4. 第11ホール 日本パビリオン内各ブース状況
5. 所感

<参考資料>

1. IETF パンフレット
2. IETF2007 FAIR GUIDE ガイドブック
3. IETF2007 日本パビリオンガイドブック
4. 神奈川・横浜カタログ出展参加者リスト
5. 2/23 付け JETRO レポート
6. IETF パブリシティ
7. インド工業連盟（CII）セシャサイ会長による日本語のプレゼン
8. 来賓リスト



## <第17回インド国際産業&技術フェア全体の概要>

- 1) 名称： 17th International Engineering & Technology Fair (IETF 2007)
- 2) 会期： 2007年2月13日(火)～2月16日(金)
- 3) 会場： ニューデリー「プラガティ・マイダン」  
(インド貿易振興局 ITPO が所有)

幕張メッセより大きな会場の約20館中14館にて開催。

- 4) 主催： インド工業連盟 (Confederation of Indian Industry : CII)
- 5) 対象分野： 工作機械、各種機械・部品、輸送機械・機器、プラントおよび技術、  
電気・電子部品、計測機器、環境関連機器および工業技術全般。  
会場内でテーマ毎にパビリオンを形成。

・ Automation & Instrumentation India:

今回で2回目、装置、制御、オートメーション

・ Biotech India

今回で3回目、バイオテクノロジー関連

・ Enterprise 2007

今回で12回目。中小企業展。

・ IETF Global

国毎の出展。国際ビジネス。

・ International Railway Equipment Exhibition (IREE)

インド鉄道局との共催。多国籍企業による鉄道関連の展示会。ドイツ、ロシアが広いスペースで出展していた。

・ Manufacturing Pavilion

製造業展。今回で2回目。Cosmos ImpexとElectronica Machine Toolsの2社が主な出展者。

・ Partmart & Autocare

3回目の自動車部品に関する展示会。アクマ (ACMA、Automotive Component Manufacturers Association of India)との共催。22社が参加した中国、台湾、日本が目立った。

・ Safe 2007

安全、セキュリティ、火災道具に関する2回目の展示会。インド国内外50社の出展。

・ Technovation 2007

技術革新に関する3回目の国際展示会。

・ The Indian Infrastructure Show (TIIS)

インフラ関連の展示会。4000平米にわたる出展スペース。

- 6) 参加国・企業数： 28カ国 (ドイツ、イタリア、スイス、ロシア、中国、台湾、タイ、マレーシア、シンガポールなど)・約900社

内日本はパートナー国という位置づけで唯一独自パビリオンを設置。  
会場内スポンサー広告も日立が圧倒的。次にキャノン。




メインゲートらしい第 7 ゲートを入ると日立とキャノンのロゴをあしらったバナー広告がそこら中に見える。逆にこの 2 社以外のスポンサーによるバナー広告はなかった。両社が大規模な広告を打っているのは、これからインド市場に積極的に投資、拡販しているという企業戦略の表れと思われる。

- 7) 来場者数： 5 万 9,173 人 (4 日間合計 CII 発表)
- 8) IETF は 1975 年に始まり、隔年で開催

#### 関連催事

##### 1) IETF 2007 全体開会式

- ① 日時： 2007 年 2 月 13 日 (火) 10:15~11:25
- ② 会場： プラガティ・マイダン 1 号館  
(当日、雨天のため屋外から室内に会場が変更)
- ③ 出席者： 約 300 名
- ④ 内容： セシャサイ CII 会長、シュリラム CII 見本市委員長、渡辺理事長、北村経済産業審議官、カマル・ナート商工大臣がご挨拶後、ランプ点灯 (榎駐印大使、シン駐日大使、鈴木中小企業基盤整備機構理事長が加わる)。挨拶の前にインド・ダンスを約 20 分披露。



## <日本パビリオンの概要>

- 1) 主催： 日本貿易振興機構（ジェトロ）
- 2) 後援： 経済産業省、外務省、日本商工会議所、東京商工会議所、  
日印経済委員会、社団法人日本経済団体連合会、中小企業金融公庫
- 3) 会場： 11号館（5,709 m<sup>2</sup>）
- 4) 規模・内容： 326小間（合計76社・11団体）
  - ① 商業ブース： 284小間（76社・4団体）
  - ② 広報ブース： 11小間（6団体）およびジェトロ企画展示31小間
    - ・ ヴァーチャル・ジャパン（映像、愛知万博瀬戸日本館「自然とともに生きる日本人の知恵・技・こころ」）
    - ・ ミックスト・リアリティ「マジックカップ」の実演
    - ・ 環境関連技術の紹介（エネルギー効率化等：NEDO、産業技術総合研究所）
    - ・ 日印二国間関係紹介（要人交流、デリーメトロなど日本のODA実績等：日本大使館、JICA、JBIC）
    - ・ ビジット・ジャパン・キャンペーン（国際観光振興機構）
    - ・ 日印ビジネスアライアンスの促進（アドバイザー2名が常駐：中小企業基盤整備機構）
    - ・ 総合案内、ジェトロ事業紹介
- 5) 開館時間：

2月13日（火）	11:30～18:00
2月14日（水）～15日（木）	10:00～18:00
2月16日（金）	10:00～16:00
- 6) 入館者数： 1万4,214人（4日間合計、ジェトロ事務局によるカウント）

### 2) 日本パビリオン開会式

- ① 日時： 2007年2月13日（火）11:30～11:45
- ② 会場： 日本パビリオン（11号館）受付前
- ③ 内容： カマル・ナート商工大臣、セシヤサイ CII 会長、シュリラム CII 見本市委員長、渡辺理事長、北村経済産業審議官、榎大使、シン駐日大使、宮前日本商工会会長（住友商事）によるテープカット。その後、VIPが日本パビリオンを巡覧。

### 3) 森元総理の日本パビリオンご視察

- ① 日時：2007年2月14日（水）09:35～10:20
- ② 内容： 訪印中の森元総理が日本パビリオンを巡覧。  
当初30分の予定を上回る45分ご視察。

### 4) ジャパン・デー・レセプション

- ① 日時：2007年2月14日（水）19:00～21:30
- ② 会場：ホテル・ル・メリディアン（ナポレオンの間）



③ 出席者：約 400 名（日印経済合同委員会参加者も出席）

④ 内容：渡辺理事長、北村経済産業審議官、アシュアニ・クマール産業担当大臣

がご挨拶。ムンジャル元 CII 会長、メータ CII 事務総長も加わった鏡割の後、榎大使の音頭で乾杯。セレモニーの前後にインド・ダンス、大江戸助六太鼓（国際交流基金がスポンサー）を上演。それぞれ約 30 分。

5) ミッション等の日本パビリオン訪問

① 日本機械工業連合会ミッション： 2月15日（木）

金井日立製作所相談役ほか 20 名

② ジェトロ・シンガポール派遣ミッション： 2月13日（火）および 14日（水）

ジェトロ・シンガポール寺澤所長ほか 11 名

③ パテル・グジャラート州産業大臣一行： 2月13日（火）

④ ヴァイシリンガム・ポンディシェリ（連邦直轄地／元フランス植民地）

産業大臣一行： 2月14日（水）午後

⑤ スブラマニアン新・再生エネルギー省次官： 2月16日（金）

⑥ 日印経済合同委員会参加者の一部も見学

< 展示会各会場の様子 >

■ 第3～第5ホール セキュリティ関連 SAFE2007/03/05



セキュリティといっても、マンパワーによる警備関連がメイン。

その中でも IC タグによる荷物追跡システム等ありました。



■第6ホール IREE 鉄道関連

■インド中央鉄道 (Central Railway)



鉄道用車両、車両内什器などを出展。

■ロシア鉄道



極東～ヨーロッパ、インドへ繋がる鉄道網を大きなパネルで展示。

■ ドイツブース



第 6 ホールの一角を占めて、主に鉄道関連（システム、車両、部品等）を出展。各個別ブースのトップには「made in Germany」の統一フレーズが。

■ JR



日本の JR も出展していた。やはり売りは新幹線とリニアモーターカー。



■第12ホール オートメーション、装置、製造  
(AUTOMATION & INSTRUMENTATION, MANUFACTURING)

■台湾ブース



第12ホールの一角にて主に自動車部品関連を出品していた。

■第14ホール Enterprise 2007、Partmart & Autocare

会場内の様子： 主にインド国内の中小製造業が出展



## <第11ホール 日本パビリオン内各ブース状況>

パビリオン入り口のパネルに安部総理のウェルカムメッセージ



日本パビリオン受付の様子



## 自動車関連

市場伸び率年率20%、約1000万台市場（インドCII調査、日経では500万台と公表値に大きな違いあり）。日本の大手はトヨタ、ホンダ、スズキ、ダイハツなどほとんど出展したが、日産の看板がなかった。

### ■トヨタ



ハイブリッドカーのプリウスをみの地味な出展。世界最大手にしては価格的に市場価格より50%高く、インドではスズキ、ホンダに出遅れている。TATAモーターズの「T」のロゴがトヨタのロゴにそっくり。環境問題が深刻なインドへのメッセージ性が感じられる。

### ■ホンダ



今回の展示会において、最もお金と力を入れていた。ジェット機やヒト型ロボットのアシモがでてくるショーは毎回黒山の人だかり状態。最終日も16時閉館のはずが17時までショーをやって盛り上がっていた。

■スズキ (マルチスズキ)



丁度会期中に鈴木会長が来印、インドでは1983年からエンジンを生産しており現在シェア50%とトップだが、これから対ヨーロッパ、アフリカ、中近東への輸出拠点として強化するとの発表あり。スズキにとってインド市場は日本国内に次ぐ規模で、このままいくと18ヶ月以内には国内の売上を追い越すとの見通し。

■FCC リコー



1997年に設立されらインドFCC社とリコー自動車工業との50:50の合弁。主にホンダ、スズキ、ヤマハなどへ部品の供給をしている。ブースは1小間で写真のようにスタッフ間で談笑する場面も。

## IT 関連

### ■ キヤノン



プリンタ（インクジェット、レーザ）、複合機、FAX、スキャナ、デジカメ、プロジェクタなどコンシューマ製品を出展。Canon India は Canon Singapore の 100% 出資会社。また別のパビリオンでもキャノンのディーラが出展していたらしく、キャノンのロゴを発見。

### ■ 富士通



ノート型パソコンを中心に出展。富士通といえば、ライバルの NEC の影がなかった。

### ■ NTT コミュニケーションズ

SOX 法対策の内部管理システムを出展。オフィス内部者のファイルアクセス履歴を管理する。VPN で繋いで、日本からインドの各従業員のアクセス状況も管理できる。

### ■ システムコンサルタント

バンガロールに拠点を持つ東京のソフト会社。DB をウェブやエクセルという一般的なユーザインターフェースで使えるようにするミドルウェアを出展。

■三菱重工



ホンダのアシモに比べると出展スペースが狭く、地味ではあるが、若丸ロボットが人気。記念撮影するお客様も。

■華陽技研工業 (Kayoh Technical Industry Co., Ltd.)



金箔の加工技術。宝飾産業が盛んなインドならではの賑わいを見せていた。

## ■フォーラム8



3次元リアルタイムVRによる交通シミュレーションのデモをやっており、派手な画面のためかいつも賑わっていた。

## ■立命館大学アジア太平洋大学



大分に設置したキャンパスへの学生集客の目的のため出展。立命館大学はインド・ムンバイ郊外のプネーにも連絡事務所を設置している。会期中にも関わらず人が誰もいないブース。やはり日本は留学先としては「遠い国」なのか。

ただ、プネー大学では日本語学科があり、日本語教育が盛ん。毎年100人単位の卒業生を輩出している。プネーはインドの中では特に日本びいきの都市なのかもしれない。



■IBO大阪 (International Business Organization, 財団法人大阪国際ビジネス振興協会)



大阪の中小製造業5社（長谷川工業、光洋機械工業、ニッタ、パトライト、山本光学）をパーティションに分けて個別に出展。地方自治体の参加においては最大規模。

■JNTO (Japan National Tourism Organization, 国際観光振興機構)



インドから日本への観光客を増やすべくビジットジャパンキャンペーンを宣伝。日本は高いというイメージを払拭すべく、北米向けに作成されたAffordable Japanというパンフレットを配布していた。確かにホテルなどはインドより安い。秋葉原などもインド人には興味深いスポットだろう。

■みずほ銀行



インドに進出する日本企業への融資が主な目的で出展していた。

■SCS国際会計事務所



アジア各国の会計、税務、法務及び労務に通じた公認会計士・税理士の集団。インド企業の日本進出の際の会計コンサルティング。出展の性格上いつも盛況とは限らなかったが、立ち寄る来場者とは時間を掛けてじっくり話をしているようだった。

■ IN CONTROL legal support services



インドからのビザ獲得、入国手続き、日本での法人設立のコンサルティング。こちらも出展の性格上いつも盛況とは限らなかった（出展者自身不在のときも多々あった）が、立ち寄る来場者とは時間を掛けてじっくり話をしているようだった。

■ 中小企業基盤整備機構（SMRJ）


日本企業をインド企業にマッチングするという目的で出展。インドに拠点は持っていないので日本で相談に応じてくれる。

■ 神奈川・横浜ブース



今回は神奈川県・横浜市・神奈川県産業貿易振興協会の連盟にて出展。

カタログ出展参加者 6 社（ディムコ、東洋テクノエンジニアリング、サイマコーポレーション、ウスマインターナショナル、桂精機製作所、昭和電子工業）のうち、実際に現地



に入られたのが東洋テクノ、サイマ、ウイスマの3社。

(参考) 横浜市のインセンティブ :

<http://www.city.yokohama.jp/me/keizai/sinsyutu/hamasien.html>

現時点では、海外からの誘致に特別な措置が有るわけではないが、重点施設立地促進助成対象施設として英国、米国、カナダ、ドイツなど国別のオフィスビルが指定されている。

<http://www.city.yokohama.jp/me/keizai/sinsyutu/sokujosei.html>

## <所感>

### ■日本企業及び日本市場に対するインド企業及び経済界の期待

インド経済はGDP成長率8%、インフレ率6%、購買力平価では米国、中国、日本に次ぐ第4位の実力。これまでインドは欧米との関係に比べて日本との関係で出遅れ感があるが、



2007年は日印交流年（インドにおける日本年）と位置づけて、本展示会を機に交流を深めて行こうということになっている。

会場では2006年12月15日インド工業連盟（CII）会長 R. セシャサイ氏が来日、東京で行われた講演の資料が配布されていた。概要：

CII主導での日印パートナーシップ

- 総合的品質管理のための総合生産保全（TPM）クラブの設立
- 将来の製造業のニーズに対応するため、100ヶ所のインド技術研究機関と日本側の機関とが協力して様々な研究プログラムを実施中
- 中小企業基盤整備機構（SMRJ）と中小企業金融公庫（JASME）は、インドと日本の中小企業の協力関係を推進するために連携
- 日本の司馬正次教授と協力の下、製造業のビジョナリー・リーダーの育成
- インド工業連盟（CII）の東京事務所を開設

今回の展示会は欧米企業に比べて出遅れ感が目立つ日本企業のインド進出のきっかけを作るうえでは役に立つと思われるが、ここでの縁をこれからどう活かすかという各企業の姿勢によるものが大きいだろう。縁を活かすためには、それぞれの企業において地道なアフターフォローと小さい商談から信頼関係の醸成に伴い、徐々に商談規模を大きくしていくスモールスタートが必要かと思われる。

またインド市場と共に成長するインド企業（業種的にはまずは金融などのインフラ産業やアウトソース先として成長するIT産業、また両国の架け橋として機能するコンサルティング会社など）を誘致するうえでの最初の告知として役立ったものと推察する。マーケティング的というとAIDMA（Attention, Interest, Desire, Memory, Action）のまだAttentionのレベルではあり、Actionにもっていくには木目細かいフォローが必要だ。

### ■その他

今回筆者は2週間でインドのムンバイ、プネー、バンガロール、デリーと回ったが、



経済の過熱とも言える急成長ぶりを肌で感じた。ただ、交通、通信などのインフラが

追いついていない。例えるならば管理部門の整備が急務な急成長中のベンチャー企業とも言える。

・航空便

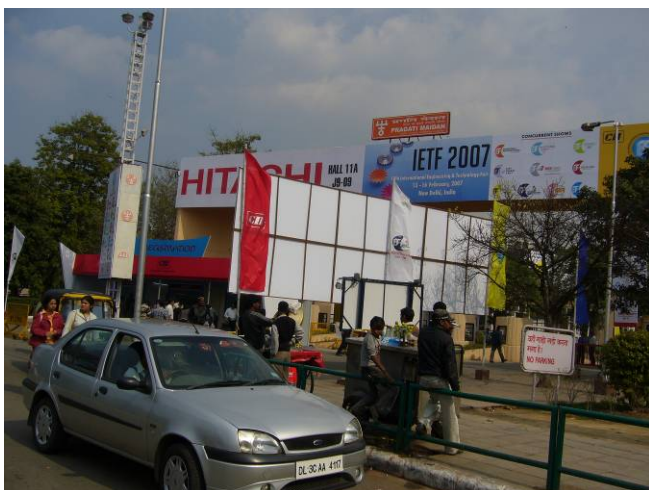
インドの国内便、国際便の航空便はどれも満杯状態なのに、デリー国際空港は10億の民を抱える国の首都の玄関とは思えないほど（特に経由地のバンコク新国際空港と比較すると）貧弱。華やかなデューティーフリーショップはないし、待合室にはインターネットカフェもなく無線LAN接続環境もない。街中にあるような売店では価格交渉は当たり前。両替のための銀行は人がいるのに、取り扱い時間が終わったという。「でも私個人にコミッションをくれれば両替してやってもいい」だって。。。

・交通

またほとんどの都市では車やバイクによる排気ガスによる公害がすさまじく、環境問題

題も急務である。今回風力発電、太陽電池発電など現地企業の出展のほかトヨタによるハイブリッドカー・プリウスもあった。

展示会場内を走る車も猛スピードでびっくり。。。



・ホテル

外国人向けのホテルが全く不足状態で宿泊料金も高騰。東京のビジネスホテル並みの価格であれば東南アジアでは結構いいホテルに泊まれるので、インドの GDP 水準だともっといいホテルに泊まれるだろうという感覚でいくと、期待が裏切られる。今回回ったほとんどの都市でホテルの料金は東京以上とっていいだろう。

・水道、電気

今回滞在中、合計5回の断水、1度の停電に見舞われた。

・携帯電話

街を歩くと誰でも持っており、電車の中でも平気で掛けている。毎月600万台を超える新規加入。日本で人気の2つ折タイプでなく、小型の平らなタイプが主流。

・IT

開発拠点としては急成長中だが、IT の利用にかけては発展途上。インターネットバンキングなどはまだだし、paypal のような国際的決済システムも利用不可。

これらから、インドのインフラ需要（主に交通、水道、国際的ホテル）を日本の水準で提供できるビジネスが日本企業には期待されるだろう。